

関連施設と連携したデータベース事業について

日本では、関連する多くの臨床学会が連携し、わが国の医療の現状を把握するため、『一般社団法人 National Clinical Database』を立ち上げ、データベース事業を開始しています。この法人における事業を通じて、患者さんにより適切な医療を提供するための専門医の適正配置が検討できるだけでなく、最善の医療を提供するための各臨床現場の取り組みを支援することが可能となります。これに関連して、NCDでの登録項目を包含するような形で、杏林大学外科学教室は当院関連施設とも共通のデータベースを構築することになりました。何卒趣旨をご理解の上、ご協力賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

1. 本事業への参加について

本事業への参加は、患者さんの自由な意思に基づくものであり、参加されたくない場合は、データ登録を拒否して頂くことができます。なお、登録を拒否されたことで、日常の診療等において患者さんが不利益を被ることは一切ございません。

2. データ登録の目的

患者さんに向けたより良い医療を提供する上では、医療の現状を把握することは重要です。体系的に登録された情報に基づいて、医療の質改善に向けた検討を継続的に行います。

3. 登録される情報の内容

登録される情報は日常の診療で行われている検査や治療の契機となった診断、手術等の各種治療やその方法等となります。これらの情報は、それ自体で患者さん個人を容易に特定することはできないものですが、患者さんに関わる重要な情報ですので厳重に管理いたします。情報の取り扱いや安全管理にあたっては、関連する法令や取り決め（「個人情報保護法」、「疫学研究の倫理指針」、「臨床研究の倫理指針」、「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」等）を遵守しています。登録されたご自身のデータをご覧になりたい場合は、お問い合わせ下さい。

4. 登録される情報の使われ方

登録される情報は、参加施設の治療成績向上ならびに皆さまの健康の向上に役立てるために、フィードバックされます。この際に用いられる情報は集計・分析後の統計情報のみとなりますので、患者さん個人を特定可能な形で、データを公表することは一切ありません。情報の公開にあたっては、院内の委員会で十分議論し、そこで承認を受けた情報のみが公開の対象となります。

不明点や疑問点などありましたら担当医までご連絡ください。

2017年4月

杏林大学医学部附属病院 呼吸器外科

診療科長 近藤 晴彦